

会長挨拶（留任挨拶）

会長 清水 政和（ハピネスケア（株））

平成19年5月26日、さいたま市介護支援専門員協会通常総会にて、当協会会長の承認をいただき引き続き就任することになりました。会長職を務めて今期で5年目になります。役員の皆様、また行政の方よりお力添えをいただき務めさせていただきたいと思ひます。今後も自分なりに精進していきたく思いますのでよろしくお願い致します。

私たち介護支援専門員が実際に現場に出て業務をしているといろいろな勉強ができると思ひます。それは利用者様からのアドバイスであり、ご指摘でもあります。また相談できる同じ悩みをもつ介護支援専門員からも見つけられると思ひます。今後も様々なケースにあたると思ひますが、関係各機関との連携を図っていくことが大切だと思ひます。

私たち介護支援専門員は介護サービスを支えるために専門的な知識を共有し合い、質の高いマネジメントを提供していけるよう、なお一層の努力を重ねていく決意であります。会員及び諸団体の皆様におかれましては、今後もなお一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願いし、留任の挨拶に代えさせていただきます。今後も引き続きご支援ご協力をよろしくお願い致します。

D
A
R
T
N
E
R

S
H
I
D

さいたま市介護支援専門員協会

「平成19年度 通常総会及び全体研修」

開催日 平成19年5月26日（土）

開催場所 ときわ会館

平成19年度 通常総会

5月26日（土）浦和区ときわ会館で平成19年度通常総会が開催されました。今年も会員出席者は69名を数え、来賓にさいたま市保健福祉局福祉部長岡安一男様をはじめ行政より多数の方のご出席をいただきました。また、岡安部長よりご挨拶をいただき、さいたま市では、人口

119万人のうち65才以上が約20万人と高齢化率は17%台に迫る状況となっております。今後、要介護認定を受ける方の増加が見込まれることから、会員の皆様とのさらなる連携強化をはかっていきたいとお話をいただきました。議案につきましても滞りなく承認されると

ともに、会長につきましても前年度より再度留任となる、ハピネスケア（株）清水政和氏となり、各役員、委員におきましても承認いただきました。そして19年度より協会において組織体制の編成を行い新たな船出となりましたことをご報告致します。



Vol.11
2007年初秋号

「私の介護」

講演者 荒木 由美子 氏

16才でアイドルデビューした荒木由美子さんは、23才で13歳年上のタレント湯原昌幸さんと結婚し芸能界を引退しました。その直後に夫の母が入院、20年に及ぶ介護生活が始まりました。結婚生活はそのまま介護の毎日でした。結婚後1年で男児を出産、育児と介護が同時進行となり、長男が幼稚園のとき、母に認知症の症状が現れました。自分の孫が分からなくなり「若い男を由美ちゃんが連れ込んだ」「意地悪をする」と言い出すこともありました。荒木さんはストレスで髪が抜け、手の震えが止まらなくなり長引く在宅介護に家庭は荒れ、荒木さんは追い詰められました。介護は先の見えないトンネルで後何十年どれくらいのお金がかかるか答えの出ない不安があったそうです。

ある日夫が母の首に手をかけようとしてしました。「このままではみんな

が駄目になってしまおう」在宅での介護が限界に達した時、施設への決断をしたのは夫でした。夫は「俺たちは在宅でできることは全部やってきた」と私の手を取って「今までありがとう」と言ってくれました。この一言が荒木さんの心の支えにもなったそうです。

2003年1月、急性白血病で亡くなる3日前、母は荒木さんの頬を撫でながら「由美ちゃんありがとうね」と何度も言ったそうです。これが、「人生、うれしき、ありがたさなんだ」祖母に教わった言葉が蘇えり、20年の介護生活が今ではすべて貴重な体験で財産になっていそうです。また母が亡くなった後、夫が荒木さんに「よくやってくれた、がんばったな」と言ってくれた時、夫の深い愛情を感じたそうです。

荒木さんの講演を聞いて、在宅介護の厳しさを改めて実感した方も多

かったように思います。また、共感し涙を流す方もたくさんいました。荒木さんが自宅で介護している時、たまらない孤独感を感じ、「私の話を聞いてくれる相手と時間がほしい。誰でもいいから話したい、でもどこへ行つて誰に訴えたらいいのかわからない」と毎日悩んでいました。そういう時に「必ずみんなが訪れるような場所に、どこに相談したらよいかすぐに分かるようにしてほしい」と切に思っていたそうです。また、同じ立場の人たちが集まる「家族会」があることも知らなかったもので、知っていたらもっと早く参加していたそうです。一般の方に身近でもっと分かりやすくすることで地域の福祉が広がるのではないかとお話され、地域全体が重く受け止めなければならぬ大きな課題だと感じました。

荒木さんと同じように相談窓口が分からず悩んでいる方がたくさんいると思います。介護保険のしくみが複雑で専門用語も多く、どのようなサービスがあるのかわからない方もたくさんいると思います。地域の方々に誰でも分かるようにもっと身近で相談しやすい環境をつくり、常に利用者・家族の視点に立つことの大切さを再認識しました。



「第1回 全体研修会」

開催日 平成19年7月7日(土)
開催場所 プラザウエスト

第1回全体研修会は、日頃、相談や苦情等、対話機会の多いケアマネジャー業務に対し、コミュニケーション術の技能アップ及び、苦情処理方法等、接遇を中心に、埼玉精神神経センター医局秘書である尾崎美奈氏よりご講義をいただきました。

今回の研修は、対話形式で先生が出席者全員に次々に質問を投げかけていき、少し緊張感がありました。笑いもあり、あつという間の2時間半でした。

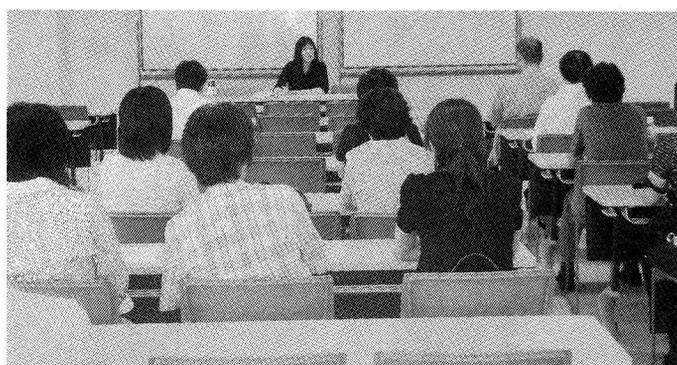
コミュニケーションでは、まず挨拶が出発点であり、そこで第1印象が決まります。職場だけでなく家庭や日常生活において「挨拶は自分から声をかける」を常に心がけることが大切です。

電話対応では、ポイントを5つ挙げられました。「①受話器の周りは整理整頓、②利き手を空けて受話器をとる、③コールは3回以内、④正確にメモ(5W1H)、⑤丁寧な言葉遣い」電話は顔が見えないため、声の調子、話し方で印象が決まります。受け答えの仕方では会社・事業所のイメージにつながるため、自分が「代表」という気持ちで対応することが大切です。

クレーム対応では、相手の話をよく聴き、最初に噴火させてしまうことです。聴くことにより少しずつ気持ちが悪くなり、親身になって対応することでそこから信頼関係が築けることもあります。クレームは「宝」と言われることもあります。企業、職場

が向上するチャンスと考えましょう。

今回の研修は、一般常識的なことが多く仕事を進めていく上での土台になると思います。土台がしっかりしていないと高い建物は建てられません。せつかくの知識・技術があつても崩れてしまいます。自分を磨くための「材料」は身近なところにたくさんあるので、普段からの心がけが大切です。



2007年度第1回浦和区ケアマネサロン

8月7日午後1時より浦和区仲町公民館にて開催。

夏休み日程の中で計19名が参加した。始めに地域包括支援センター職員より、地域包括支援センターの現状と役割について紹介。処遇困難事例についての介護支援専門員からの相談を受け付けていることや、認知症100万人サポーター作り、民生委員や心の健康センターなど他機関の連携、権利擁護の問題や、一人当たりの職員の予防プラン数の多さ、予防プランの研修を受けていても一件も委託を受けたことのない居宅介護支援事業所があるので委託を引き受けて欲しい等の説明や意見が出された。

その後、4つのグループに分かれて幹事の努力で用意された15の演題について、適切なサービスは何かと云った考え方や、捉え方について活発に意見が出された。例えば外出の介助(通院等乗降介助含む)、訪問介護における待機時間の取り扱い、身体介護の算定について、同居家族や同じ集合住宅にいる場合の取り扱い、単発のサービスの依頼ケース等。次第に話し合っていく内に各メンバーの理解は統一されていくものの、利用者のニーズに対して柔軟に支援する事の難しさを感じた。

大宮区ケアマネサロン

平成19年7月25日

大宮区では、(集団指導での内容について)・訪問介護の適切なサービス提供について)をテーマに、ケアマネサロンが開催されました。その他に、日ごろ業務の中で感じていること・疑問に思っていることや悩み等を現場の声が遥か彼方へ届くことを願いつつ、出し合いました。

テーマは堅いですが、会場の雰囲気は終始和やかで、発言を躊躇するような緊張感を誰にも感じさせない有意義な集まりでした。語り合い終了後には、会場としてお借りした施設である大宮区上小町、「特別養護老人ホーム はるばてお」を見学する時間が設けられました。

緑区サロン



第1回、緑区ケアマネサロンが7月27日に、浦和しずや苑にて開催されました。今年4月に小規模多機能施設として、緑区中尾に開設した「さわやか中尾」から井上様と小宮様をお迎えし、「小規模多機能型」とはどのようなサービスが受けられるのかというお話を中

心になごやかな雰囲気の中、本音の意見交換と参加者同士の交流の機会を持つことができました。

住み慣れた地域でデイサービス、訪問介護、ショートステイを同じ顔ぶれの職員が担うということは利用者にとって、特に認知症状のあるお年寄りには安心感が得られる為、とても良い試みではあると思うのですが、実状は経営面等ではなかなか理想通りにはいかず、大変とのことでした。

次回は実際にさわやか中尾の施設見学を予定しており、地域に密着した介護サービスのあり方をもう一度皆さんと一緒に考えてみたいと思っております。

また10月頃には、熊谷市にある(超高級)有料老人ホーム「グリーンフォレストビレッジ」の施設見学も予定しておりますので皆様たくさんのお参加をお待ちしております。

西区ケアマネサロン

今年度のサロン開催は7月28日(金)、午後4時よりケア大宮花の丘にて、指扇病院、内科ドクター瀬川裕之先生をお迎えして行われた。内容は、第1部 講演「地域医療について」最近思うこと、第2部 事例検討「退院後経鼻状態」で施設生活希望のかたの受け入れについて(瀬川先生参加)。

【講演要旨】ご自身が、山口県からさいたま市の指扇病院に移動してみても「医療」の状況が地域環境によってずいぶん異なることを実感し、大局的に医療と地域の問題を考えてみたいと思う。

南区ケアマネサロン

平成19年7月2日

南区では南区文蔵公民館にて、「訪問介護、生活援助」を中心に意見交換を行ないました。

日中独居、介護疲労家族への生活援助について、今まで対応に困っていたことを話し、今後どうすべきか話し合いました。

生活援助中心型の訪問介護を再確認し、1人ケアマネが殆どの事業所なので、対応の難しいケース等、サロンの中で話し合えて、有意義な時間を過ごす事ができました。

改めて考える必要があるのではないか。

【事例検討】受け入れ困難な例として悩み多いのが、経鼻での施設入所であり、その理由は鼻を通すチューブに雑菌が多く、2週間毎のチューブ取替えを要するために手間手数を割きにくいのが現状、従って、胃潰瘍などの問題がない場合は胃ろうのほうが扱いやすい。

お時間を割いていただいた瀬川先生へのお礼について、「それは柏崎に送って下さい」とのお言葉に主催者一同感激いたしました。

北区ケアマネサロン

平成19年7月13日(金)



原殿園にて、「ケアマネ業務について意見交換会」という形で北区のケアマネを対象にサロンを開催し、普段のケアマネ業務の中で疑問に思うことや悩んでいることなど意見を出し合いました。

主に1つ目は主治医との連携で担当者会議への参加や連絡などに苦悩すること、2つ目は家族同居の利用者への家事援助について、が上がりました。他市では主治医と連絡の取り易い時間が記載されている一覧表が行政から送られてくる市や、主治医への意見用紙が統一されている市もあるとか。また、家事援助が認められる対象者の範囲と内容の制限が区によって様々であるが、同居の定義・家事援助内容がきちんと統一されている市もあったり…。このような良い方法が自市でも可能であるなら協会から提案していくのはどうか等々。

いずれにしても、今後の業務の中で疑問や苦悩があるかと思いますが、他の方の考え方を伺うことで見直しも図れ、情報の収集や共有ができた良い機会となりました。

岩槻区ケアマネサロン開催

日時 平成19年7月25日(水) 参加者 11名

さいたま市在宅ケアサービス
公社岩槻サービスセンター会議
室にてケアマネサロンが開催さ
れました。

まず、今一番注目されている
「同居家族がいる場合の生活援助
について」自分のケースを報告
しました。それぞれのケースを
抱えてケアマネは悩んでいます。
区役所に相談しても、こちらが
求めるような答えは返ってきま
せん。ケアマネの判断に任せる
という曖昧な答えに対して、ど
う対応したらいいのでしょうか。

同居の場合、生活援助は利用で
きませんとやめてしまえば、
すっきりしますが、利用者のこ
とを考えると、そう簡単にはい
きません。ケアマネとは何の為
に存在するのでしょうか。利用
者のことを一番に考え、どうし
たらいいのかを利用者と一緒に
考えていきたいものです。

次に自己点検表について情報
提供があり、今後のケアマネサ
ロンについて話し合いました。
前年度は講師の先生を呼ん
で、研修会を開きましたが、今



年度は、事例検討や情報交換の
場にしていこうということにな
りました。岩槻区はまだまだ会
員数が少ないですが、地道に活
動していく予定です。

中央区・桜区ケアマネサロン



8月4日ナーシンググヴィラ
与野において「体験！配食サ
ビス」が開催されました。

まずは宅配配食業者、「宅配
クック1・2・3」、「ハンナガ
デン」、「武蔵野フーズ」3社
のご協力をいただき、各社が提供
してくださった資料等も参考
に特色をうかがい、試食をいた
しました。調理上の工夫点等も
より深い理解ができましたし、
提供方法も多様で、ケアマネ
ジャーとして利用者へ伝える
上でもパンフレットだけでは

ない具体的な情報提供が行え
る等、今後の支援に役立てるこ
とが期待できます。

次に意見交換会となり、日頃
抱えている問題や対応に困難を
感じる事など活発な意見が飛び
交いました。具体的には、訪問
介護における生活援助中心の
サービス提供や通院介助につい
て現場の混乱があることや、行
政からの通達・文書は読み手の
解釈の仕方により理解が異なる
こと、行政への要望などもでま
した。当初の終了予定時刻を1
時間延長してしまうほど充実し
た機会が持てました。

報告

施設介護支援専門員研修

「19年度第1回施設ケアマネサロン」

日時 平成19年6月30日(土) 13時30分～16時00分
場所 ナーシンググヴィラ与野デイサービス(中央区)

今年度初回の研修は「施設
ケアマネサロン」。施設・居宅
の区別を問わず会員全体を対
象として開催しました。

まず初めに「自分の好きな
食べ物や言っているから参加者全
員と握手」をして
緊張感を解した
後、ブライインド
ウォーク(話をす
ることが出来な
いAさんと目の
見えないBさん
AさんがBさん
を誘導しホール
を自由に歩く。ペ
アを交替し相互の役割を体験
する)を実施。終了後のグルー
プ討議では「自分の傾向につ
いて気づき、援助者としての
自分を再認識することができ
た」「気づかないうちに先入観
を持って接していたことを発
見した」などの意見がありま
した。



その後はテーマを決めない
グループ討議。情報交換はも
ちろん、スタッフ育成につい
ての悩みにまで話は及び、「も
う少し時間が欲しい」との声
もあがる程、活発な意見交換
の場となった
ようです。参加
者からは「施設
ケアマネは孤
独になりやす
いので情報を
得る良い機会
になった」「居
宅のケアマネ
も参加したこ
とで施設の内容や施設ケアマ
ネの業務が理解できて良かつ
た」「特にテーマを決めないこ
とで型にはまらない意見交換
ができて良かった」などの感
想が聞かれました。

好評により、年度内にもう
1回開催しようかと、スタッ
フ間で検討しています。

ほのぼのさんほ

山岳救助隊志望!?

浦和しづや苑

松本 幸司

記録的な暑さとやらに負けないように：夏バテにならないように：等など、なんやかんや理由をつけてはスタミナがつきそうなモノを食べ続け、秋を待たずに肥えていく一方：

そんなある日の事、「ガキンチョ」を遊びに連れていった帰り道。車内では、運転中なのにチャイルドシートを破壊する勢いで「ガキンチョ」が暴れ、押さえつけながらの無茶な運転。ほんとにチャイルドシートは安全なのか？なんて思っていた時に赤信号で止まることができた。

ふと前方の横断歩道を見ると、かなり大きな犬がゆっくり横断し始めていた。雪山で遭難した人を救助できるのでは？首にウイスキーが入った樽でもぶらさげてるのでは??と思えるくらいでかい！

こんなに大きい犬の

飼い主は大柄に違いなと思っていたら、犬の遥か後方、伸縮式のリードを伸ばしきり、ひきずられるようにヨロヨロ歩いている、犬より小さいバッチャンがいた!!

年齢は80歳をとつくに超えているであろう。腰は曲がり、歩く様は「特定」を超えて「認定」が確実におりそう！歩行者用信号が赤になっても渡りきれずクラクシヨンの雨を浴びている：

以前、担当していた犬を飼っている人は、「毎日散歩に行かなければならないから、私の健康はコノ犬のおかげ」と言っていた。それと同じなのかなあ：と思っただけれど。ちよいとバランズが違いすぎる。もしも犬が走ってしまったら間違はなくスタントマン：何はともあれ、閉じこもっているよりはいいか!! 良い介護予防を☆☆☆☆バッチャン！その犬ならきつと乗れますよ!! たぶんね。

事務局より

1. 平成19年度会費納入について

当協会の運営は会員様の会費によって運営されております。未納の方は大至急下記口座にお振り込み下さい。

郵便局口座 口座番号 10320 番号 76599611

加入者名 さいたまま市介護支援専門員協会

※ 事業所名で振り込んだ場合、同事務所に複数の会員がいる場合特定できませんので会員名で振り込んでください。事業所名で振り込んでしまった場合は、振込日、事業所名・会員名を事務局までご連絡下さい。

2. 会員の住所・事業所等登録事項に変更があった場合や入会希望の場合は事務局までご連絡下さい。

さいたま市介護支援専門員協会 事務局 野崎・西間木

(財)さいたま市在宅ケアサービス公社内

電話番号 048-645-7470

FAX 048-645-7500

リニューアルしたので見てください～い!!

ホームページ

<http://www.saitamashi-keamane.jp>